

第 11 回「主観的に結論を下す(1)」

1 自分の意見をまとめる

世の中には科学的や法律的に正しいか正しくないかが決められない問題がある。正解を探すのではなく、主観的に結論を下さなければならない問題である。

世の中にはたくさんの人々がいる。私たちは、自分とは異なった考え方や価値観や生活信条をもった人と協力しあいながら仕事を進めていかなければならない。そして、仕事を進めて行くうえで問題が生じた場合、それが科学的にも法律的にも正しさを決められない場合には、「自分たちの正解」を決めなければならない。そのような場面で「自分の正解」を説明できる人間になりたいものである¹。

あなたが提案する「あなたの正解」は、相手が考えている「相手の正解」とは異なったものかもしれない。そのような場合には両者をすりあわせながら、双方にメリットのあるような「新しい正解」を探して行く必要がある。もちろん、あなたは、自分の答えを強引に押し通したいかもしれない。押し通すにしろ譲り合うにしろ、まずは自分のアタマの中を整理して、「結論は何なのか・それはなぜなのか」を相手に伝えないことにはハナシにならない。今回はその練習を試みよう。

2 グループワーク:まず決断を下す

2.1 もしもあなたが「救急車を有料にするか・しないか」を決めてよいと言われたら?

救急車の出動件数が年々増えており、2013 年度は 590 万件を突破した²。出動件数が増えると、到着に要する時間が延びるため、一刻を争う処置に間に合わなくなる事態も増えている。救急車を呼ばなくても済む状態での出動要請や、そもそも救急車を呼ぶ必要の無い状況下でも安易に出動要請される状況も増えている³。そこで、本当に必要とされる場合に限って救急車が出動するよう、救急車の利用を有料化するアイデアが考えられている。

¹ もちろん、誰かに決めてもらう人生も悪くはない。しかし、ぜんぶ面倒をみってくれるヒトはこの世の中にはいない。自分でどうにかしなければならないのが人生である。

² 平成 25 年の救急出動件数等 (速報), 総務省,

http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/houdou/h26/2603/260328_1houdou/02_houdoushiryou.pdf

³ 救急出動が増加の一途、半数は不要不急 東京都内/日経新聞(2014-06-20),

http://www.nikkei.com/article/DGXNASDG2900R_Z20C14A1CC0000/

2.2 グループワーク：「救急車を有料にするか・しないか」を決める

もしも「救急車を有料にするか・しないか」を決めてよいと言われたら、あなただったらどうするだろうか。有料化するかしないかを決定し、手持ちの情報と考え方に基づいて仮決定し、その根拠を簡潔に述べてみよう。条件を付してもよい。

3 決断を客観的に評価してみよう

3.1 仮決定を支持する意見・支持しない意見を比較検討してみよう

「あなたの答え」を決めた後、世の中にはどのような意見があるのか、自分の結論を支持する意見はあるか、自分の結論を**支持しない**意見はあるか、を探してみよう。人間は自分に都合のよい意見を集めて安心してしまいがちだが、実際には自分と**反対の意見のほう**が重要である。なぜなら、反対意見に耳を傾けることによって、あなたの意見の**弱点が見つかる**ことがあるからだ。

3.2 一週間後に再度決定しよう

一週間で収集した意見・データ・情報に基づき、今回の結論を維持するか、それとも変更するかを決める。そして、その根拠を示す。

●第12回～第14回の演習計画

第12回「主観的に結論を下す(2)」(2014-07-03)

- ・ [グループワーク]救急車有料化の最終決定:仮決定を支持する/支持しない考え方と情報を一週間の間にサーチし、その調査結果に基づいて、再度決定を見直し、グループとしての最終決定を下す。
- ・ [演習]調査レポートのタイトル発表(全員)
- ・

第13回「調査レポート+30秒トーク」(2014-07-10)

- ・ [演習]レポート内容に関する30秒間トーク(全員)
- ・ [課題]調査レポート提出(全員)
- ・ [解説]論理的に考える
- ・

第14回「総合講評」(2014-07-17)

- ・ 調査レポートの返却(全員)
- ・ 全14回のまとめ

□